営農レポート
Niigata
令和６年５月１日
発行：JA/JA全農にいがた

大豆の難防除雑草対策

大豆連作圃場では、帰化アサガオ類、ツユクサ類、アレチウリ、イヌホウズキなどの雑草が増加し、減収要因になっています。特に帰化アサガオ類は、つる性で発生期間が長く、一度畑に侵入すると、防除が難しい雑草です。帰化アサガオ類の防除についてまとめてみました。

１．　問題となる帰化アサガオの種類

（１）大豆畑で問題となる帰化アサガオ類の共通特徴

１年草。北米や熱帯アメリカ原産の帰化植物。江戸時代に観賞用草花や輸入穀物に混入して渡来。種子繁殖。つる性植物。

（２）マルバルコウ

茎はつる性で無毛、長さは数ｍにも達する。葉に毛がない、卵形で先は尖り、基部は心形。子葉の切り込みは小さく、丸みをおびる。花はオレンジ色で、直径約 1.5～2 ㎝。

（３）マメアサガオ

葉に毛があるが、目立たない。子葉は切れ込みが深く、尖っている。葉の縁は紫色になりやすい。花は白色、まれにピンク色で、直径約 1.5～2 ㎝。

（４）アメリカアサガオ（変種に葉がハート型のマルバアメリカアサガオ）

葉、つるやガクに毛が多い。子葉の切り込みは小さく、丸みをおびる。ガクは蕾のころから先端が細長く、大きく反り返る。花は赤～青色と様々で直径約３㎝。

マルバルコウ

マメアサガオ

アメリカアサガオ

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

2.　防除対策

（1）早期発見・早期対策

侵入初期に見つけた場合は、圃場をよく見回り種子を作らせないように抜取りを徹底することです。大豆畑周辺の耕作放棄畑にも注意を払ってください。

（2）体系防除（令和３年度新潟県農林水産業研究成果情報より）

帰化アサガオ類は、発生期間が長く出芽後２～４週間でつるになる特性があり、つるになる前の播種後から大豆開花前までに、除草剤を組み合わせた体系防除を行う必要があります。

ア．体系防除①

大豆播種後出芽前に土壌処理剤を散布し、大豆２～３葉期にアタックショット乳剤を散布し、大豆４～5 葉期に大豆バサグラン＋イネ科用除草剤を散布する防除体系です。

イ．体系防除②

大豆播種後出芽前の土壌処理剤の効果が低かった場合は、出芽揃い～初生葉展開期にパワーガイザー液剤を散布し、大豆２～３葉期にアタックショット乳剤を散布し、大豆４～5 葉期に大豆バサグラン＋イネ科用除草剤を散布する防除体系です。

ウ．体系防除後の対策

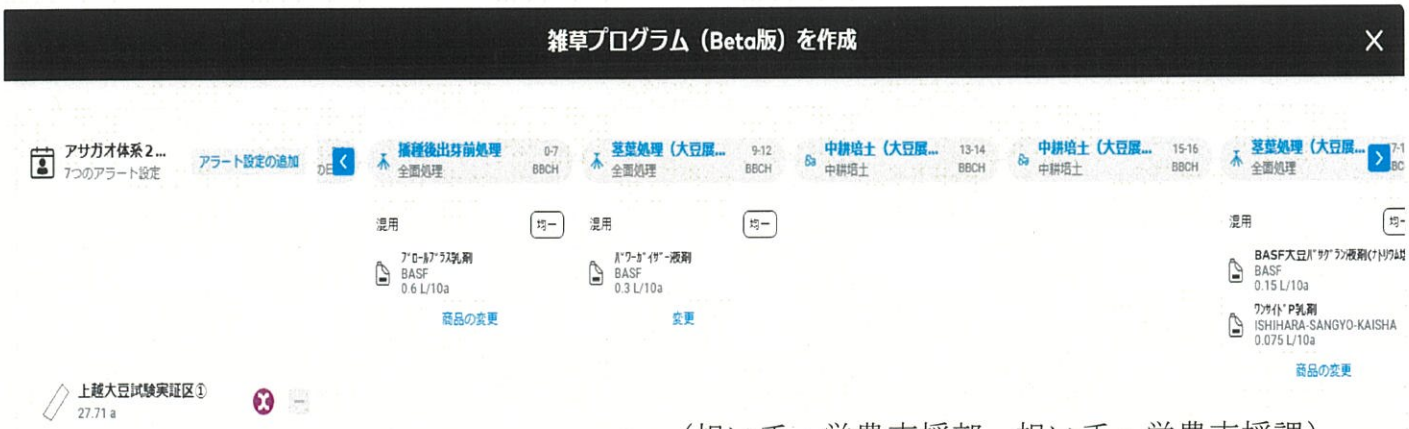
つる化しない時期に中耕培土を行うことにより、畝間を中心に防除できますが、株間に残ったアサガオ類は、開花期までにバスタ液剤を大豆株元まで処理して枯らします。

（3）田畑輪換

発生が圃場全体に蔓延した場合は、水田に戻す田畑輪換によって、帰化アサガオ類の発生拡大を抑えましょう。

3．ザルビオによる雑草防除支援

ザルビオフィールドマネジャーの大豆版には、アサガオ類を選択すると専用の除草剤と散布時期を示した雑草プログラムが示されます。（下図）



（担い手・営農支援部　担い手・営農支援課）

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。